

---

# Red Moon

須崎優志

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Red Moon

### 【NZード】

N3852A

### 【作者名】

須崎優志

### 【あらすじ】

高校生、倉崎圭を中心として繰り広げられるミステリー小説。一部グロテスクな内容を含む語が出てくるかもしませんが、ご了承ください。

## プロローグ

～プロローグ～

血のように真っ赤な月。

その月が照らすのは、赤い水で穢れてしまった少女の姿。

手にはナイフを。

足元には両親の亡骸を。

誰も知らない、私だけの記憶 。

## プロローグ（後書き）

どうも、初投稿の須崎優志テス。。。えっと・・・とりあえず頑張って小説を書いていくので、皆様に読んでいただけるコトを願つていますww

## 第一話・始まり

「んじゃ、行つてきますっ！」

朝、8時頃。

いつものようにあたしは、誰もいない自分の家に別れを告げ学校へ向かう。

あたしに家族はいない。そんなあたしを引き取つてくれようつな親戚もいなかつた。

ずっと独りで生きてきたのだ。

学校の通学路は、家から学校へと続く一直線の道。途中で信号が3つ。

おっと。友達を迎えるにいかなければ。

1つ目の信号を越えたすぐ真横の大きなマンションに住んでいるあたしの幼馴染、香川恵美。

あたしにとっては家族のような存在。大切な親友である。

マンションへ入ると、見慣れた設備が目にに入る。

手前には各階の部屋と連絡をとるための機械。

その右側にはあたしの身長と同じくらいの高さの木。

そして向こう側にはマンションの管理人さんが住む部屋がある。

機械に近寄つたあたしは恵美が住んでいる部屋の番号を押した。

5・・0・・・・2・・・・・・・・

電話のベルのような音がして、すぐさま恵美のお母さんの声が。

「はい、どちら様?」

「え・・・とい、倉崎ですけど」

「ああ皋ちゃん? ちょっと待ってね」

そう言つてふつり、と通信が途絶えた。やがて、恵美がマンションの階段を駆け下りてくる音が聞こえ始める。

カツカツカツカ・・

「あー皋ーーー!」ゴメンね、待たせちゃって。ちょっと寝坊しちゃつたから・・

休み明けで、久しぶりに会う恵美の甲高い声が耳をついた。

声がした方へ顔を向けると、案の定にここにしている恵美の顔が目に入る。

恵美は髪はショートカットで、少し茶色。高校生にしては結構小柄で、その割にはしっかりした性格の女の子だ。

そんな彼女の笑顔にはいつも和ませれる。

「んーん。 いつものことだし気にしてなによー。 さつやと学校行こ  
う」

「だね！数学の小テスト今日だよね？まだテスト調べしていないんだ  
あ・・」

マンションを出て通学路をひたすら早歩き。

「あたしもしてないよ。 恵美の頭なら大丈夫だつてーーあたしはヤ  
バすぎ・・」

「そんなことないよー？ 皐だつてこの間の順位表に名前載つてたじ  
やん！」

「そーだっけ？」

「皐つてば記憶力悪いーーー！」

2人の笑い声が辺りに響く。 この瞬間があたしは一番楽しい。

2つ目の信号を越えたところで、 辺りに登校する生徒の姿が田立ち  
始める。

「春ちゃんだーーー！」

「どーーー？」

突然声を上げた恵美の言葉に、あたしは周りをきょろきょろと見回す。

あ・・・いた。真山春菜。同じクラスの月村進一も一緒にだ。

「うつわあ・・春菜つてほんと月村君と仲いいねーwww

あたしは恵美にしゃべりかけた。

「あはは・・あれじゃあ春ちゃんに話しかけにくいやー・・・」

「確かにね」

春菜はポーテールの女の子で、あたしが見る限り学年一美人。中学で知り合って仲良くなつた、大切な友達の一人である。

月村君は春菜の彼氏で、クラスの中心的人物。とにかく面白い人だ。確かサッカー部で、スポーツも万能だったような・・・。

「春ちゃんどられちゃつて私寂しく」

「同じく。あたしの春菜を返せーーー!」

2人に聞こえないくらいの声でそう言つて、再び恵美と笑いあつ。

3つ目の信号を越えてやつと学校に到着。

5月24日、今日も楽しく過ごせると思つていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3852a/>

---

Red Moon

2010年10月28日06時56分発行